

[19] サービス業（Ⅲ．余暇関連その他サービス）

12/11 13/12 ◎伸び率10%以上 ●伸び率0～▲10%  
 : 天気図マーク; ◎ ◎ ○伸び率0～10% ●伸び率▲10%以下

1. 企業経営動向（業況・需要動向、経営戦略・経営方針）

（1）業況・需要動向

余暇関連サービスは、景気動向とともに消費者ニーズの変化や天候に大幅に左右され、また流行となり人気のあるサービスには短期間に需要が集中する傾向が見られる。新しくレジャー施設を整備する場合、大規模投資が行われることとなる。

遊園地業は、入場者数の減少や売上高の低下、各地におけるテーマパークの増加による競争の激化のため多くのテーマパークが閉園や経営不振に陥るなど、業界全体として厳しい状況が続いている。他方、ブランドを確立し好調なテーマパークやエンターテインメントを重視したテーマパークの開業など、都市部を中心に新しい開発が行われ、新旧交代が進展しつつある。

ゴルフ場事業は、長引く消費低迷の影響により消費者の会員権取得意欲が減退しており、ここ数年来の利用者数の減少や利用料金の低価格化競争と相俟って厳しい状況が続いている。リゾートクラブについても、他の宿泊施設が低価格化しているため、会員制による廉価な宿泊施設としての優位性が薄れてきており、同様に厳しい状況が続いている。

（2）経営戦略・経営方針

遊園地業は、新規施設（機種）の導入やリニューアルが重要であるが、投資サイクルが短くなる傾向にあり、近年は施設導入とあわせてイベントを重視する傾向が強くなっている。そのため、時節にあわせたイベントやTV、人気キャラクターとタイアップしたイベントの開催をし、消費者ニーズに適応した企画提案やきめ細かい対応が必要となっている。

ゴルフ場事業は、ビジタープレー料金の引き下げ、優待日の設定、優待券・サービス券の発行、午後からのハーフプレー制を採用することによる特別割引料金での提供などの利用料金低廉化や、キャディ制からセルフ制への移行等によるコスト削減が行われている。リゾートクラブについては、消費者選択のワンストップ化を可能とすべく同業他社及びレジャー施設等と共同した宣伝・申込みシステムを構築し運用を始めている。

## 2. 設備投資動向（12年度見込み、13年計画）

### （1）これまでの設備投資の推移

遊園地の投資額は、12年度見込みは1,347億円（8社合計）と一部施設の大規模開発により数字を押し上げている。投資目的別では、95%以上が生産増強（施設の拡張・設備導入）であり、残りは維持・補修への投資が中心となっている。

ゴルフ場の投資額は、12年度見込みは3億円（10社合計）であり、投資目的別では、74%が維持・補修であり、残りは合理化への投資が18.5%となっている。

リゾートクラブは、12年度見込みは56億円（5社合計）であり、投資目的別では、65%が生産増強であり、残りは維持・補修への投資が25.9%となっている。

### （2）平成13年度の設備投資計画

遊園地の13年度計画は前年度実績見込（12-13共通回答企業ベース）と比較すると3.9%の減少。80%が生産増強、15%が維持・補修となっている。これは、一部施設における大型投資の一巡、全体的に新たな投資が控えられていることによる。

ゴルフ場は、上記と同様の比較で75.5%の増加。48.3%が合理化、46.5%が維持・補修となっており、今後も合理化・更新（老朽代替）中心で推移する見通し。

リゾートクラブは、同様に64.3%の増加。60.3%が生産増強、18.9%が維持・補修、12.7%が情報投資となっている。

## 3. 長期資金調達・運用動向（長期資金運用動向、長期資金調達動向）

遊園地業の運用は設備投資資金が中心であるが大型投資の一巡により減少傾向にある。調達は、民間金融機関からの借入れが大幅に増加しており、全体の60%を占めている。中長期的にも借入金による調達が中心となると見込まれる。

ゴルフ業における資金調達は、内部資金に依存しており、全体の89%を占めている。中長期的にも同様と見込まれる。

リゾートクラブは、民間金融機関からの借入れが45.9%と増加している。

設備投資の前年度比の推移

